



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 4468号 2018.7.1 発行

人・ひろしま 障害者に学ぶ作品の発想力 太田川学園アートディレクター 羽鳥智裕



／広島 毎日新聞 2018年6月29日
太田川学園のアートディレクター、羽鳥智裕さん＝広島市安佐南区伴東3の同園で、元田禎撮影

羽鳥智裕（はとり・ともひろ）さん（39）＝北広島町

「広島に来るまで、障害のある人たちとの接点は全くなかった。職を探しているとき、縁あって紹介されたのがここだった」。知的障害者の支援施設「太田川学園」（安佐南区）で勤め7年がたつ。今月10日まで泉美術館（西区）で開かれた展覧会「ハナサクモリの芸術家たち」ではアーティスト5人を陰ながらサポートし、成功に導いた。埼玉県上尾市出身。東京の花店に就

職し、顧客の注文に応じて花や枝などを花器にさす「生け込み」や、結婚式、イベントでの装飾に携わった。「花の美しさを別の形で表現したい」と、ビルの屋上を借り切って、音楽と飲食を融合したパフォーマンスを企画。その後フリーとなり、ドイツ・ベルリンに1カ月半滞在してパフォーマンスを繰り返すなど、独自のアートの世界を築いた。

縁もゆかりもない広島に移住したのは、2011年3月11日に発生した東日本大震災がきっかけだった。「言葉で表現しにくいのだが、『とにかく西に行こう』と思った。栃木県で暮らす知人が広島出身で、当時住んでいた東京の部屋はそのままにして、4日後には家族で電車に乗っていた」と振り返る。

広島市内の空き家で数カ月過ごし、北広島町に移住した。紹介を受け学園を訪ねた同年8月、理事長室で見た一人のアーティストの絵の出来栄に驚いた。「世の中には『障害者アート』という概念があるが、作品の素晴らしさは、障害の有無とは関係ない。『この人と張り合いたい』と純粋に思ったし、生活ぶりをじっくり見てみたくなった」

今回の展覧会に出展した5人の作品は、描く対象が全く違い、表現方法もバラエティーに富む。発語しない男性は、部屋や廊下の壁に、長方形をつなぎ合わせ彩色した絵を描いている。「食べる、そして寝る。それ以外はひたすら好きな絵を描く。やり続けることは難しいが、彼らはそれを淡々とこなす。私たちは、そこから多くを学べる気がするんです」【元田禎】

給付費不正 堺市、福祉2業者を営業停止処分 /大阪 毎日新聞 2018年6月30日

堺市は29日、市内で障害のある子どもを預かる児童発達支援・放課後等デイサービスを運営する事業者「ワンラブ」（和泉市上町）と「ペース」（大阪府中央区上町1）を3カ月の営業停止処分とした。いずれも営業時間内に必要な人員を置かず、不正に給付費を受け取ったなどとしている。

市によると、ワンラブは2015年11月～17年末、ペースは16年7月～18年3月のいずれも開所時から不正請求。ワンラブは薬を取り違えたことなどの報告もしていなかった。市は違反加算金を含め、ワンラブに約1480万円、ペースに約560万円の返還を求めた。【矢追健介】

不妊手術推奨運動に「思想残る」 障害者支援者団体、兵庫県を批判



西日本新聞 2018年06月30日
旧優生保護法下の兵庫県で行われた「不幸な子どもの生まれない運動」について考える集会＝30日午後、神戸市

旧優生保護法（1948～96年）下で強制不妊手術の費用を負担するなどした兵庫県の「不幸な子どもの生まれない運動」について考える集会が30日、神戸市で開かれた。障害者支援団体の関係者らは「きちんと総括しておらず優生思想が現代にも残った」と批判した。

この運動に詳しい松永真純大阪教育大非常勤講師は「謝罪がないまま今に至っていることは非常に深刻。問題を過去のこととせず、一人一人が向き合うことが大切だ」と話した。

集会では、当時の知事が主導したとされる経緯や、反対活動をした障害者団体が紹介された。

障害者脅迫メモ 児童施設近くに 富谷の路上 /宮城 毎日新聞 2018年6月30日

28日午前9時ごろ、富谷市明石台の児童発達支援施設近くの歩道上に障害者に対する脅迫文が落ちているのを近くに住む30代の女性が発見した。届け出を受けた大和署が脅迫事件として調べている。

同署によると、脅迫文はA6判のメモ用紙で、「知的障害者ころせ」などと手書きで書かれていた。現場付近には児童発達支援施設のほか、小学校や保育園がある。同署はパトロールを強化するとともに、近隣の施設や住民に注意を呼びかけている。【滝沢一誠】

日に日に疲労、深夜ドライブ 強度行動障害、足りぬ支援 中日新聞 2018年6月30日

自分や他人を傷つけたりする「強度行動障害」。重度者の場合は行政や福祉の支援が必要だが、十分なサポートが受けられず、負担に苦しむ家族もいる。強度行動障害の長男を落ち着かせるため、毎晩のように深夜のドライブを続ける守山市の夫婦に今月上旬、同行取材した。

午後十時、守山市内で和田泰代さん（50）と待ち合わせた。ワゴン車の後部座席には長男の智泰さん（18）がいた。「こんばんは」と声を掛けても膝に顔を埋めたまま、反応がない。記者は助手席に乗せてもらい、琵琶湖の湖岸道路を一緒にドライブした。

智泰さんは自閉症と重度の知的障害があり、自分の手足や顔にあざができるほどつねったり、跳んだりするなど、じっとしてられない。自宅の壁をたたいたり、大声を上げたり。一人では過ごせないため、生活全般で介助が必要だ。

ドライブの途中、対向車はほとんどない。湖岸道路を南へ走り、大津市瀬田方面に向か

う。車内で流れる音楽が眠気を誘う。突然、後ろから「ウオー」と叫び声。智泰さんが体を前後に激しく揺らし、助手席背面にガンガン頭をぶつける。「寝不足で夫婦とも疲れすぎている。あまり深く考えないようにしている」と泰代さん。智泰さんの左窓ガラスは、たたいても割れないように緩衝材とタオルで覆われていた。

この日は午後八時ごろから夫（58）が運転し、午後十時から交代した泰代さんは大津市中心部を回り、守山市の元の場所に戻ったのは午後十一時半。好きなドライブをして景色を見てみると、心が落ち着くという智泰さん。眠りに落ちたのは午前一時すぎだった。

ドライブを始めたのは、智泰さんが養護学校高等部一年のとき。平日は寄宿舎で暮らし、週末に自宅へ戻ると、夕食後に「ブーブー」をせがんだ。今年三月には養護学校を卒業。県内外で入所施設を探したが、満員だったり、対応できる職員がいなかったりして断られた。現在は四月に市内で新設された生活介護事業所で、午前はチラシ配りや畑作業、午後はプールへ行くなどして過ごす。別の事業所で夕食と入浴を済ませて午後八時ごろに帰宅する。その後、午前零時ごろまでがドライブの時間だ。

泰代さんは「智泰は常に気持ちが不安定。小さいころはもっとしんどかった」と振り返る。夫も家に不在がちとなるトラック運転手から、医療機器会社に転職し協力してきた。夫は早朝の新聞配達もこなし、泰代さんは寝付きの悪い智泰さんに付き添い、床に就くのは深夜一〜二時。ともに睡眠時間は短く、日に日に疲れがたまっている。「何とか今は続けているが、いつ踏ん張りがきかなくなるのか怖い。一日でもいいから休みがほしい」と涙を浮かべた。

県によると、強度行動障害のある人は、福祉サービスを昨年受けた人だけで県内に六十人。施設へ入所できない人は集計されず、実態は不明だ。障害者の入所施設は二十一あるが、いずれも満員で県外施設への入所は昨年度で百五十五人に上った。知的障害者らが入所する大規模施設は国が地域移行を推進し、新設しない方針を示しているが、障害者は年々増え、重度者が取り残されている。県などは作業所などで支援者を増やす養成研修を開いているほか、受け入れ事業所へ補助金も出しているが、支援は広がっていない。県障害福祉課の担当者は「強度行動障害の人が入所できるよう、本年度中に福祉施設や作業所の関係者を集めて検討する場をつくりたい」と話している。（浅井弘美）

<強度行動障害> 自分や他人の体をたたいたり、傷つけたりするほか、かみつくなどする行動が高い頻度で起こり、特別な支援を必要としている状態を指す。行政・福祉の分野で使われる言葉。厚生労働省の調査では、福祉サービスを受ける強度行動障害のある人は昨年12月時点で、全国に延べ34564人。重度の知的障害や自閉症スペクトラムのある人が多く、2016年に相模原市で起きた障害者施設殺傷事件の現場となった施設は、強度行動障害者を積極的に受け入れていた。



佐世保3兄弟転落死1ヵ月 高齢、障害、苦境訴え 真相なお不明、捜査続く 西日本新聞 2018年06月30日
3兄弟の転落死があった県営泉福寺団地＝長崎県佐世保市松原町
長崎県佐世保市松原町の県営泉福寺団地で同居する70代の兄弟3人が転落死してから、29日で1ヵ月。転落の経緯は判然とせず、県警は事件性の有無を含めて慎重な捜査を続ける。一方、3人の周辺取材からは、高齢と障害のはざま将来に不安を感じ、閉塞（へいそく）感がにじむ兄弟の苦境も浮かび上がってくる。

亡くなったのは、篠原利亜（としつぐ）さん（77）、亨さん（74）、健二さん（70）。3人は5月29日夜、団地敷地内で倒れているのが見つかった。亨さんは団地12階の住居ベランダから、利亜さんと健二さんは住居

棟の11階と12階の間の階段踊り場付近から、間を置かずに転落したとみられている。

第三者の足跡や争った痕跡はなかったとされ、自殺の可能性もあるが、捜査関係者は「目撃者はおらず、事件性がないとも言いきれない。事実関係の解明へ、証拠を一つ一つ積み上げるしかない」と話す。

県警には苦い過去がある。1992年4月に自殺で処理した事案は半年後に男が殺害を供述、殺人事件となった。当時を知る県警幹部は「特に転落事案は難しい」と打ち明ける。

◇ ◇

関係者によると、団地には亨さんが2006年11月に入居。その後、健二さんが同居するようになり、利亜さんは亡くなった日に、亨さんの手続きで入所していた福祉施設を退所、同居を始めたばかりだった。

利亜さんは知的障害があり、精神疾患を患っていた時期もあったという。利亜さんを知る医療関係者は「自分の意思で自殺できるとは思えない」と話す。

健二さんにも軽度の知的障害があり、障害者施設に1人で通っていた。日常会話に支障はなく、作業態度は真面目だったという。

そんな兄と弟の2人の「世話役」が亨さんで、かつては健二さんの食事の用意もしていた。ただ、亨さんは4年ほど前から目が悪くなり、最近は料理が難しくなって配食サービスを頼むようになっていたという。

「今の生活をいつまで続けられるか分からない...」。健二さんをサポートしていた施設の関係者は、今年2月の面談で亨さんが漏らした言葉を思い出す。

障害のある30代の子どもと暮らす佐世保市の60代女性が、亨さんの内面を代弁した。「この先どうなるのだろうかという不安は常にある。転落死の報道を切実に受け止めている」

団地に10年以上、入居する亨さんだが、近所付き合いはほとんどなく、相談相手も周囲に見当たらない。捜査関係者は「3人の暮らしぶりは、まだよく分からない。将来の悲観だけで死ぬ必要があったのか」。転落死の真相はまだ見えない。

発達障害に継続投与、一部症状改善 自閉スペクトラム症、福井大など

福井新聞 2018年6月30日



福井大医学部の小坂浩隆教授

発達障害の一つ「自閉スペクトラム症」の男性に、オキシトシンというホルモンを継続投与すると、同じしぐさや言い回しを繰り返す常同行動が改善することを国際的な基準で確認したと浜松医大、福井大などの研究チームが6月29日、英医学誌電子版に発表した。大規模な臨床試験を行い、国際的な基準で治療効果や安全性を検証したのは世界初という。

一方、自閉スペクトラム症のもう一つの代表的な症状である対人コミュニケーションの障害では、明確な効果が確認できず、さらに検討すべき事項があるとしている。

研究チームには、2大学のほか、金沢大と名古屋大が参加した。知的障害のない自閉スペクトラム症の男性計103人を対象に、オキシトシンを鼻からスプレーで投与するグループと、偽薬を使うグループに分け、臨床試験を行った。国際的な判定方法「自閉症診断観察検査(ADOS)」で、2014年12月から約1年半にわたり効果を調べた。

その結果、オキシトシンを投与したグループで常同行動の軽減が確認できたのに対し、偽薬のグループは変化がなかった。対人関係の障害は、両グループとも改善がみられ、差がなかった。また、オキシトシンを投与したグループでは、相手の目を見る時間が増えたという。

オキシトシンは脳内で分泌されるホルモンで、安心感や信頼感をはぐくむ作用があるとされる。研究チームに参加した福井大医学部の小坂浩隆教授(44)は「オキシトシンに

よる自閉スペクトラム症の改善を国際的な基準で確認できた。治療薬が承認され、安全に処方できるようになることを期待したい」と話している。

重度後遺障害者 グループホーム・支援施設への入所わずか 毎日新聞 2018年7月1日

国土交通省「介護者なき後」調査の結果概要

	グループホーム	入所施設
入居(所)実績		
遷延性意識障害者	約0.4%	約23.3%
脊髄(せきずい)損傷者	約1.8%	約54.3%
対応可能ケア		
たんの吸引	約1.9%	約30.1%
胃ろう	約1.2%	約29.4%

国土交通省「介護者なき後」調査の結果概要※脊髄損傷者の入居(所)実績は、調査途中で質問項目に追加されたため、回答数はグループホーム613、入所施設265

障害者が暮らす全国のグループホーム(GH)と入所施設を対象に、国土交通省が寝たきりで意思疎通も困難な最重度の「遷延(せんえん)性意識障害者」の入居(所)状況を調査したところ、回答したGHで約0.

4%、入所施設で約23.3%しか受け入れ実績がなかった。交通事故では重い後遺症を負った子を親が介護するケースが多く、「親なき後」の介護のあり方が家族の間で喫緊の課題になっている。介護者のいない障害者の居場所として期待されるGHなどが受け皿となり得ていない実態が浮かんだ。【江刺正嘉】

調査では、たんの吸引など医療的ケアに対応できるGHなどが少ないことが重度後遺障害者の受け入れを阻んでいる状況も判明。そのため同省は今年度から、重い後遺症がある交通事故被害者を受け入れるGHと入所施設を対象に、自動車損害賠償責任(自賠責)保険の資金を活用し、職員の人件費などを補助する事業を始めた。

同省は交通事故の被害者救済策を担っており、「親なき後」対策に必要なデータを集めるため、2014年度から、全国のGHと障害者支援施設などの入所施設を地域ごとに分け、順次アンケートした。今年度に調査する北海道を除いた46都府県9385カ所に調査票を送り、GH746、入所施設412の計1158カ所から回答があった。

それによると、遷延性意識障害者の受け入れ実績は、入所施設が96カ所(約23.3%)で、GHは福島2、島根1の3カ所(約0.4%)だけだった。同様に重い後遺症が残る可能性がある脊髄(せきずい)損傷者は施設で約54.3%、GHで約1.8%だった。同省は、回答がなかった施設、GHでも受け入れ実績は極めて少ないとみている。

医療的ケアへの対応については「たんの吸引」は施設の約30.1%、GHの約1.9%が「可能」と回答。胃に直接栄養を入れる「胃ろう」が「可能」なのは、施設で約29.4%、GHで約1.2%だった。気管を切開した人を「受け入れ可能」としたのは施設の約8.0%、GHで約0.5%。施設の実績が上回る一因は、集団処遇で効率的に医療や介護サービスを提供できるためとみられる。

国は「脱施設」をうたい、障害者の地域移行を進めている。交通事故後遺障害者の介護者からも家庭に近い環境で少人数の共同生活が送れるGHを「親なき後」の受け皿として期待する声が強い。こうした意向を踏まえ、同省は職員増に伴う人件費補助(1カ所で最大年1080万円)▽介護ベッドなど医療機器購入費(同400万円)▽医療的ケアに関する職員研修費(全額補助)一の計1億4890万円を予算化した。

「介護者なき後」緊急的課題

高木憲司・和洋女子大准教授(障害者福祉論)の話 重度後遺障害者には夜間も含めて長時間介護する職員が必要だが、相当な人件費がかかる。だが、社会の高齢化が進み、「介護者なき後」は今や緊急的な課題だ。交通事故被害者に限定しているとはいえ、国交省が人件費を保障する意味は非常に大きい。

旧優生保護法 障害者、不幸じゃない 「生まれない運動」考える集会 「県の総括と謝罪求める」 神戸 /兵庫

毎日新聞 2018年7月1日



集会で「不幸な子どもの生まれない運動」について解説する松永真純・大阪教育大非常勤講師(右端)=神戸市内で、反橋希美撮影

旧優生保護法に関連し、県が先駆けて展開した「不幸な子どもの生まれない運動」(1966～74年)や背景にある優生思想を考える集会が30日、神戸市中央区橋通3の市障害者福祉センターで開かれた。障害者や研究者らでつくる市民団体が主催し、135人が参加。「今も続く『障害者は不幸だ』との価値観を問い続けなければいけない」との声が相次いだ。【反橋希美】

運動は障害児を「不幸な子ども」とし、その「出生予防」のための施策を推進。精神障害者らへの強制不妊手術や、羊水検査の県費負担を実施した。

集会では、大阪教育大非常勤講師の松永真純さん(43)が運動の概要を説明した。施策立案に主導的な役割を果たした医師が記した「国家社会の負担を減らし、個人の責任あらざる不幸を除くために、異常児の生まれない施策もやるべき」という文章を紹介。施策を進めた対策室は障害者の抗議を受けて廃止されたが「障害者が(不幸とされることに)『違う』という声を上げたことが重要だった」と指摘した。

また「優生手術に対する謝罪を求める会」の利光恵子さん(64)は「優生保護法がなくなって20年以上。ようやく被害者の人権回復が始まろうとしている。行政と福祉、医療、教育が一体となって強制不妊手術が進められた仕組みの全容を明らかにする必要がある」と強調した。

運動をめぐっては、県立こども病院(神戸市)が2016年に発行した記念誌で「ユニークな県民運動」と記載。昨年秋、県は病院のホームページから記述を削除したが、市民団体の「運動の歴史的経緯を明らかにすべき」との要求には応じていない。

集会の最後では、県に対し運動を検証したのか明らかにすることや、主催団体などと話し合いの場を要求するアピール文を採択した。「神経筋疾患ネットワーク」の石地かおるさん(50)は「出生前診断が広がる今、暴力的な思想を根付かせた県の罪は大きい。総括と公の謝罪を求めたい」と話した。

児相が不妊手術手続き関与、千葉 63年資料、県の要請受け



北海道新聞 2018年7月1日
千葉県から児童相談所に向けて書かれた資料の写し。旧法に該当する児童に不妊手術を勧めるように要請している

旧優生保護法(1948～96年)下の障害者らへの不妊手術問題で、千葉県が1963年、県内の児童相談所(児相)に対し、旧法に該当する児童に不妊手術を勧めるよう要請していたことが1日、県の資料で分かった。県は「児相は知的障害児施設や入所児童の保護者などに不妊手術を促していたようだ」と説明。実際に対象の児童を県に報告していた児相もあった。子どもの心身の健康を支えるはずの児相が、旧法の手続きに関与した疑いが明らかになった。

識者からは「児相が不妊手術の推進に関与していた問題点を踏まえ、詳しい実態を解明すべきだ」との指摘が出ている。

面前DV 市区町村に通告を 安部計彦氏

西日本新聞 2018年07月01日



西南学院大教授 安部 計彦氏

◆児童相談所の負担軽減

虐待で子どもが亡くなる事件が相次いで報道されており、児童相談所の対応が問題となっている。その背景として、児童相談所の忙しさが話題になることが多い。実際、2016年度に全国の児童相談所が対応した虐待相談は12万件を超え、過去最高を毎年更新している。その結果、児童相談所の職員は殺到する虐待通告の調査に追われ、危険性の高い事例への適切なアセスメントや丁寧な対応が出来ていないという指摘も多い。

16年度の虐待相談の45%は警察からである。これは16年に警察庁から出された通達にある「児童虐待の早期発見及（およ）び被害拡大の防止を図るためには、広く通告が行われることが望ましい」の項に基づき、積極的に通告していることが背景にある。

しかし、その約6割は警察が子どものいる家庭でのDVを認知し、児童虐待の防止等に関する法律で定める「児童が同居する家庭における配偶者に対する暴力その他の児童に著しい心理的外傷を与える言動を行う（面前DV）」ことに該当するとして通告したものである。先の警察庁の通達は、通告先を限定はしていないが、実際にはほとんどが児童相談所に通告している。

政府は6月15日に関係閣僚会議を開き、「相談体制の強化や関係機関の連携強化などについて、1カ月後をめどに取りまとめる」としている。だが現状では、いくら児童相談所が体制を強化し、警察との連携を深めても、初期調査に追われ、本来求められる機能が十分に果たせない状況は続くことが予想される。

そこで筆者は、市区町村の職員体制を十分に整備し、調査方法のノウハウを伝授することを前提として、警察からの面前DVは市区町村に通告することを提案する。

市区町村は住民の福祉向上のために、さまざまな支援を行っている。DV相談への対応など家族への支援もできる。面前DVの通告は、子どもへの直接的な被害は見えないが、虐待の可能性がある状態だ。ならば家族支援を前提としつつ、子どもの安全確認を行う方が適切であろう。子どもに会えないなど安全が確認されない場合には、市区町村は適切に児童相談所につなぐことで、子どもの安全確保と家族支援の整理が図れると考える。児童相談所の本来の機能回復と虐待のある家庭への介入、支援システムの整理のために、実現を望む。

安部 計彦（あべ・かずひこ） 西南学院大教授 北九州市児童相談所で22年間勤務した後、2005年に西南学院大人間科学部社会福祉学科准教授、11年から教授。博士（社会福祉学）。国の社会保障審議会専門分科会委員など務める。

アートイベント 障害者が自己表現 長崎で160人創作活動 /長崎

毎日新聞 2018年7月1日

障害のある人が絵画などの創作活動を通して自己表現を図るアートイベントが30日、長崎市千歳町のチトセピアホールであり、約160人が参加した。同ホールと、障害者の就労支援などをするNPO法人「ツナグ・ファミリー」（長崎市）の共催で、4回目。

参加者たちは、カラフルな塗料を使い、透明なビニール傘をキャンバスに見立てて絵を描いた。色鮮やかなサクラランボを描いた長崎市の丸山紘平さん（23）は「絵が明るくな

るように、色遣いを工夫した」と話した。

諫早市の障害者就労継続支援施設のカフェ「コパン」の利用者と職員によるバンドの演奏もあった。イベントを企画した県立大村特別支援学校の野坂知布（ともりの）教諭は「障害がある人もない人も、互いに刺激を受けるきっかけになる」と話している。【今野悠貴】

観劇メガネかけると字幕が 劇団四季、福岡の公演で導入 朝日新聞 2018年7月1日

劇団四季は今月から、福岡市のキャナルシティ劇場で上演中のミュージカル「リトルマーメイド」で、俳優のセリフが表示される眼鏡型ディスプレイ「字幕グラス」を使った多言語字幕サービスを始めた。聴覚障害のある人や、訪日外国人に舞台を楽しんでもらう狙いだ。劇団四季の公演では札幌市に続き、国内2カ所目。



字幕グラスで見た舞台のイメージ（劇団四季提供）



字幕グラスは日本語、英語、中国語（繁体字、簡体字）、韓国語に対応。眼鏡のレンズにあたる部分が透明なディスプレイになっていて、字幕が宙に浮かぶように見えるのが特徴。舞台上のセリフとの時間差も、ほとんどないという。

貸し出し開始前日の今月13日、聴覚障害のある人や訪日外国人計15人が体験した。福岡県聴覚障害者協会の大沢五恵理事長は「これまでは友だちと一緒に来て教えてもらわないと、劇の内容がつかめなかった。これなら1人でも来られて、自分の世界が広がる」。

韓国からの旅行者、イ・タウンさん（25）は「眼鏡型でさほど邪魔にならず、画期的なシステムだと思う。福岡に旅行する友だちにも薦めたい」。劇団四季の吉田智誉樹（ちよき）社長は「キャナルシティは多くの外国人観光客が訪れる場所。レジャーを探している方々にPRしていきたい」と話す。

11月3日まで。貸出料千円（聴覚障害者は身体障害者手帳の提示で無料）。保証金3千円。7歳以上対象。問い合わせは、劇団四季Webカスタマーセンターお問い合わせフォーム（https://s.shiki.jp/m/websupport_f）へ。（上原佳久）

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も



大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行